



## 帯状疱疹とは？

帯状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスといわれるウイルスが原因で発症する病気です。幼少期に、水ぼうそう（水痘）にかかったことのある方は、すでに水痘

・帯状疱疹ウイルスに対する免疫を獲得しています。それと同時に、症状のない今もウイルスは、脊髄に近い神経節で実は眠っています。

私たちが、年齢やストレス、疲れなどによって免疫力の低下した時に、ウイルスが再び活性化して皮膚の発赤や痛みなどの症状として出現します。

最初に痛みがあり、顔・体・四肢どこかの場所に右か左の半分に水ぶくれを伴った赤い発疹が帯状に出てくる病気で、

何故かかるのか？と言うと、ウイルスは、知覚神経節に潜伏しており、神経を傷つけるからと言われています。治療は、通常の痛み止めといよりも神経に効く痛み止めや神経ブロックという注射になります。副作用も強くでる事があり、治療が難しい病気であり、一年以上苦しんでいる患者さんもいます。

帯状疱疹予防ワクチンには、『生ワクチン』と『不活化ワクチン』の2種類のワクチンがあります。

乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）  
生ワクチン  
1回  
1回 7,000円～8,000円  
皮下注射  
約50～60%

また、副反応が、強くでる場合があります。また、免疫が低下している人や免疫抑制剤/ステロイドなどの薬を内服している人でも、不活化ワクチンの場合には接種出来ません。



帯状疱疹後神経痛（PHN）  
一番の問題が、皮膚が良くなった後も帯状疱疹後神経痛といつて痛みが残る事があるという事です。帯状疱疹後神経痛は、帯状疱疹の合併症としては、最も頻度が高く3ヶ月後で約20%、6ヶ月後に約10%も合併するというデータもあります。

帯状疱疹にかからないのが一番良いですが、年齢とともに免疫が低下して、50歳を超えると発症率が高くなり、80歳までに3人に1人は発症するといわれています。そのため、ワクチンが大事になってきます。年齢を重ねるにつれて水痘・帯状疱疹ウイルスに対する免疫力は低下するため、ワクチンを打つことによって低下した免疫力を高めることができます。

帯状疱疹予防のワクチンには、『生ワクチン』と『不活化ワクチン』の2種類のワクチンがあります。

不活化ワクチン  
2回（基本2ヶ月あける。1～2ヶ月）  
1回 20,000円～25,000円  
筋肉注射  
約90%以上  
10年以上

また、免疫が低下している人や免疫抑制剤/ステロイドなどの薬を内服している人は接種出来ません。

### 帯状疱疹ワクチンの比較

	帯状疱疹ワクチン (シングリックス筋注用)	乾燥弱毒生水痘ワクチン (ビケン)
ワクチンの種類	不活化ワクチン	生ワクチン
接種回数	2回（基本2ヶ月あける。1～2ヶ月）	1回
価格	1回 20,000円～25,000円	1回 7,000円～8,000円
投与方法	筋肉注射	皮下注射
予防効果	約90%以上	約50～60%
効果持続期間	10年以上	5年程度
副反応	注射部位の痛み・腫れ 倦怠感、頭痛、発熱など やや副反応が強い 症状は、3日～1週間以内	注射部位の痛み・腫れ 倦怠感など 症状は、3日～1週間以内
利点	・予防効果が高い。 ・持続期間が長い。	・価格が安い。 ・1回で済む。 ・副反応が少ない。
欠点	・2回接種が必要。 ・価格が高い。 ・皮下注に比べて、注射部位の痛みや腫れが強い。	・免疫が低下している方などには接種出来ない。 ・予防効果が高くない。 (年齢とともに効果が下がる) ・持続期間が短い。